

令和2年度
(令和元年度決算)

統一的な基準による財務書類の説明書

令和3年3月

月形町総務課財政係

I. 令和元年度月形町財務書類の公表について

1. 平成26年4月30日に財務書類の作成方法の統一化のための「今後の新地方公会計の推進に関する研究会報告書」が取りまとめられ、平成27年1月23日に「統一的な基準による地方公会計マニュアル」が取りまとめられました。本町では、「統一的な基準」により財務書類を作成することにより、団体間の比較可能性が確保され、将来的には決算分析や予算編成への活用を考えております。

2. 連結対象とした会計の範囲

(1) 一般会計等(1会計)

一般会計

(2) 全体会計(5会計)

①国民健康保険特別会計

②農業集落排水事業特別会計

③介護保険事業特別会計

④後期高齢者医療特別会計

⑤病院事業会計

(3) 連結会計(7会計)

①月新水道事業団上水道事業会計

②月形町振興公社

③南空知ふるさと市町村圏組合

④空知教育センター組合

⑤石狩川流域下水道組合

⑥北海道後期高齢者医療広域連合

⑦北海道市町村備荒資金組合

全体会計とは、一般会計等に特別会計を含めたもので、連結会計とは、全体会計に外郭団体を含めたものです。

Ⅱ. 令和元年度財務書類

1. 貸借対照表(要約)

金額単位:千円

項目	一般会計等		全体会計		連結会計	
	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率
資産の部						
1. 固定資産	15,528,106	95.1%	17,233,535	94.1%	18,286,130	93.0%
(1)有形固定資産	12,448,080	76.2%	14,103,555	77.0%	14,570,726	74.1%
事業用資産	6,999,831	42.9%	7,815,700	42.7%	7,815,700	39.7%
インフラ資産	5,084,082	31.1%	5,808,957	31.7%	6,193,772	31.5%
物品	364,168	2.2%	478,899	2.6%	561,254	2.9%
(2)無形固定資産	15,920	0.1%	15,920	0.1%	16,305	0.1%
(3)投資その他の資産	3,064,106	18.8%	3,114,061	17.0%	3,699,098	18.8%
投資及び出資金	645,956	4.0%	645,956	3.5%	674,998	3.4%
長期延滞債権	7,725	0.0%	20,640	0.1%	20,804	0.1%
基金	2,411,576	14.8%	2,450,151	13.4%	3,005,986	15.3%
徴収不能引当金	-1,151	0.0%	-2,685	0.0%	-2,689	0.0%
その他	-	0.0%	-	0.0%	-	0.0%
2. 流動資産	803,582	4.9%	1,073,470	5.9%	1,376,628	7.0%
現金預金	71,321	0.4%	128,022	0.7%	407,043	2.1%
未収金	3,573	0.0%	108,384	0.6%	120,184	0.6%
財政調整基金等	729,220	4.5%	834,960	4.6%	835,215	4.2%
徴収不能引当金	-532	0.0%	-851	0.0%	-1,177	0.0%
その他	-	0.0%	2,955	0.0%	15,362	0.1%
資産の部合計	16,331,688	100.0%	18,307,005	100.0%	19,662,757	100.0%
負債の部						
1. 固定負債	3,337,442	20.4%	3,870,657	21.1%	3,964,134	20.2%
地方債等	3,212,755	19.7%	3,652,508	20.0%	3,721,412	18.9%
長期未払金	29,370	0.2%	29,370	0.2%	29,370	0.1%
退職手当引当金	95,317	0.6%	95,317	0.5%	95,485	0.5%
その他	-	0.0%	93,463	0.5%	117,867	0.6%
2. 流動負債	473,678	2.9%	600,266	3.3%	651,138	3.3%
1年内償還予定地方債等	414,556	2.5%	497,908	2.7%	534,849	2.7%
未払金	9,811	0.1%	31,705	0.2%	42,697	0.2%
その他	52,272	0.3%	70,653	0.4%	73,591	0.4%
負債の部合計	3,811,121	23.3%	4,470,923	24.4%	4,615,273	23.5%
純資産の部						
	12,520,567	76.7%	13,836,082	75.6%	15,047,485	76.5%
純資産の部合計	12,520,567	76.7%	13,836,082	75.6%	15,047,485	76.5%
負債・純資産の部合計	16,331,688	100.0%	18,307,005	100.0%	19,662,757	100.0%

(1)項目の説明

①貸借対照表

令和2年3月31日現在に保有する資産、負債、純資産を表示したもので、地方自治体が、住民サービスを提供するために保有している資産と、その資産をどのような財源(負債・純資産)で賄ってきたのかについて、概括的に示している。

②事業用資産(有形固定資産)

庁舎や学校などの有形固定資産

③インフラ資産(有形固定資産)

道路や河川などの社会基盤となる資産

④無形固定資産

ソフトウェア等無形の資産

⑤投資及び出資金(投資その他の資産)

運用目的の有価証券や出資金等の資産

⑥長期延滞債権(投資その他の資産)

税収等の未収金や貸付金などのうち回収期限到来後1年以上経過したもの

⑦基金(投資その他の資産)

特定目的のために積立した資産

⑧徴収不能引当金(投資その他の資産)

長期延滞債権のうち徴収不能見積額

⑨現金預金(流動資産)

現金預金(歳計外預金を含む。)

⑩未収金(流動資産)

税収等や使用料手数料のうち回収期限到来後1年を経過していない

⑪財政調整基金等(流動資産)	もの 財政調整基金及び1年以内に地方債の償還に充てられる減債基金
⑫徴収不能引当金(流動資産)	未収金のうち徴収不能見積額
⑬地方債(固定負債)	地方債・借入金残高のうち1年内償還予定額を差し引いたもの
⑭退職手当引当金(固定負債)	将来の退職者に対して給付すべき退職金の見積額
⑮1年内償還予定地方債等(流動負債)	地方債・借入金残高のうち1年内償還予定額
⑯未払金(流動負債)	財貨・役務の提供を受けたが支払いが済んでいないもの
⑰純資産	これまでの世代が負担して蓄積された資産

(2)概要

- ①総資産：一般会計等では163.3億円、全体会計では183.1億円、連結会計では196.6億円の資産を形成している。
- ②総負債：一般会計等では38.1億円、全体会計では44.7億円、連結会計では46.2億円については、将来の世代が負担する。
- ③純資産：一般会計等では125.2億円、全体会計では138.4億円、連結会計では150.5億円については、現在までの世代が負担済みである。

2. 行政コスト計算書(要約)

金額単位:千円

項目	一般会計等	全体会計	連結会計
1. 経常費用計(行政コスト総額)	3,716,721	4,831,868	5,721,019
(1)業務費用	2,363,901	3,055,171	3,286,209
人件費	601,937	958,087	1,034,641
物件費等	1,739,311	2,046,153	2,186,858
その他の業務費用	22,653	50,931	64,710
(2)移転費用	1,352,820	1,776,697	2,434,810
2. 経常収益	781,909	1,161,727	1,395,796
3. 臨時損失	-	507	1,200
4. 臨時利益	5,980	5,980	5,980
純行政コスト	2,928,833	3,664,668	4,320,444

(1)項目の説明

- ①行政コスト計算書 1年間の行政運営コストのうち、資産形成に結びつかない行政サービスに要したものを人件費、物件費、その他の業務費用、移転費用に区分表示している。
- ②人件費(経常費用) 職員給与、退職給付費用など
- ③物件費等(経常費用) 備品、消耗品、委託費、修繕維持費、減価償却費など
- ④その他の業務費用(経常費用) 地方債等の支払利息、徴収不能引当金繰入額など
- ⑤経常費用(移転費用) 補助金、社会保障費など
- ⑥経常収益 使用料、手数料、財産売却収入など
- ⑦臨時損失 災害復旧費、資産の除売却損など
- ⑧臨時収益 資産の売却益など
- ⑨純行政コスト 行政コスト総額に経常収益と臨時損益を加減したもの

(2)概要

- ①行政コスト総額:一般会計では37.2億円、全体会計では48.3億円、連結会計では57.2億円となっている。
- ②経常収益:一般会計では7.8億円、全体会計では11.6億円、連結会計では14.0億円となっている。
- ③純行政コスト:一般会計では29.3億円、全体会計では36.6億円、連結会計では43.2億円となっている。この赤字分は、一般財源及び国・県等補助金で賄っている。

3. 純資産変動計算書(要約)

金額単位:千円

項目	一般会計等	全体会計	連結会計
1. 前年度末純資産残高	12,110,746	13,411,180	14,616,920
2. 純行政コスト	-2,928,833	-3,664,668	-4,320,444
3. 財源	3,338,654	4,069,272	4,716,067
税収等	2,816,342	3,266,567	3,850,186
国県等補助金	522,312	802,704	865,881
4. 本年度差額	409,822	404,604	395,624
5. 資産評価差額	-	-	-
6. 無償所管替等	-	-	-
7. 比例連結割合変更に伴う差額	-	-	14,644
8. その他	-	20,297	20,297
9. 本年度純資産変動額	409,822	424,901	430,565
10. 本年度末純資産残高	12,520,567	13,836,082	15,047,485

(1) 項目の説明

- ①純資産変動計算書 純資産が年度中にどのように増減したかを、財源、資産評価差額、無償所管替等、その他に区分して表示したもの。
- ②税収等(財源) 交付金など
- ③国県等補助金(財源) 国や都道府県からの補助金収入
- ④本年度差額 純行政コストに財源を加えたもの
- ⑤資産評価差額 有価証券等の評価差額など
- ⑥無償所管替等 無償で譲渡又は取得した固定資産の評価額など
- ⑦本年度純資産変動額 本年度差額に資産評価差額、無償所管替等、その他を加えたもの
- ⑧本年度末純資産残高 前年度純資産残高に本年度純資産変動額を加えたもの

(2) 概要

- ①純行政コスト:一般会計では29.3億円、全体会計では36.6億円、連結会計では43.2億円となっている。この赤字分は、一般財源及び国・県等補助金で賄っている。
- ②財源:一般会計では33.4億円、全体会計では40.7億円、連結会計では47.2億円となっている。
- ③本年度差額:一般会計では41.0億円、全体会計では40.5億円、連結会計では39.6億円となっている。
- ④本年度純資産変動額:一般会計では41.0億円、全体会計では42.5億円、連結会計では43.1億円となっている。
- ⑤本年度末純資産残高:一般会計では125.2億円、全体会計では138.4億円、連結会計では150.5億円となっている。

4. 資金収支計算書(要約)

金額単位:千円

項目	一般会計等	全体会計	連結会計
1. 業務活動収支	1,043,101	1,087,342	1,117,084
業務支出	2,949,030	4,036,617	4,902,552
業務収入	3,781,564	4,913,393	5,809,240
臨時支出	-	-	170
臨時収入	210,566	210,566	210,566
2. 投資活動収支	-1,029,499	-1,050,066	-1,089,635
投資活動支出	1,451,905	1,493,819	1,668,632
投資活動収入	422,406	443,753	578,997
3. 財務活動収支	-13,742	-72,552	-75,441
財務活動支出	414,556	504,195	540,085
財務活動収入	400,814	431,644	464,644
4. 本年度資金収支額	-140	-35,276	-47,992
5. 前年度末資金残高	60,836	152,673	446,916
6. 比例連結割合変更に伴う差額	-	-	-2,301
7. 本年度末資金残高	60,696	117,397	396,624
8. 本年度末歳計外現金残高	10,625	10,625	10,419
9. 本年度末現金預金残高	71,321	128,022	407,043

(1) 項目の説明

- ①資金収支計算書 1年間の資金の増減を業務活動収支、投資活動収支、財務活動収支に区分して表示したもの。
- ②業務支出(業務活動収支) 行政サービスを実施するうえで、毎年度継続的に支出されるもの(人件費、物件費、補助金、社会保障給付など)
- ③業務収入(業務活動収支) 行政サービスを実施するうえで、毎年度継続的に収入されるもの(税収等、国県等補助金、使用料及び手数料など)
- ④臨時支出(業務活動収支) 行政サービスを実施するうえで、臨時的に支出されるもの(災害復旧事業費など)
- ⑤臨時収入(業務活動収支) 行政サービスを実施するうえで、臨時的に収入されるもの(資産売却収入など)
- ⑥投資活動支出(投資活動収支) 公共施設や道路整備などの資産形成、投資や貸付金などの金融資産形成に支出したもの
- ⑦投資活動収入(投資活動収支) 公共施設などの資産形成の財源に充てられた補助金収入、土地などの固定資産の売却収入など
- ⑧財務活動支出(財務活動収支) 地方債などの償還支出
- ⑨財務活動収入(財務活動収支) 地方債などの発行収入

(2) 概要

- ①業務活動収支: 一般会計では10.4億円、全体会計では10.9億円、連結会計では11.2億円となっている。
- ②投資活動収支: 一般会計ではマイナス10.3億円、全体会計ではマイナス10.5億円、連結会計ではマイナス10.9億円となっている。
- ③財務活動収支: 一般会計ではマイナス1.4億円、全体会計ではマイナス7.3億円、連結会計ではマイナス7.5億円となっている。
- ④本年度資金収支差額: 一般会計ではマイナス0.0億円、全体会計ではマイナス0.4億円、連結会計ではマイナス0.5億円となっている。
- ⑤本年度末資金残高: 一般会計で0.6億円、全体会計では1.2億円、連結会計では4.0億円となっている。

5. 比率分析

分析比率名	計算式	一般会計等	全体会計	連結会計
純資産比率(%)	純資産総額/資産総額	76.7%	75.6%	76.5%
社会資本形成の世代間比率(%)	地方債等/有形固定資産	29.1%	29.4%	29.2%
有形固定資産減価償却率(%)	減価償却累計額/取得価額	73.2%	72.1%	71.9%
歳入額対資産比率(年)	資産総額/歳入総額	3.3	3.0	2.6
地方債の償還年数(年)	地方債等/業務活動収支	3.5	3.8	3.8
受益者負担の割合(%)	経常収益/経常費用	21.0%	24.0%	24.4%
行政コスト対財源比率(%)	純経常行政コスト/財源	87.9%	90.2%	91.7%

(1) 分析比率の説明

①純資産比率

総資産のうち返済(支払)義務のない純資産が占める割合を意味する。この比率が高いほど財政状況が健全である。

②社会資本形成の世代間比率

社会資本の整備の結果を示す事業用資産とインフラ資産と物品を地方債等によってどのくらい調達したかを意味する。この比率が高いほど将来の世代が負担する割合が高い。

③有形固定資産減価償却率

有形固定資産の耐用年数に対して、資産の取得からどの程度経過しているのかを意味する。

④歳入額対資産比率

これまでに形成されたストックとしての資産が歳入の何年分に相当するかを表すもので、資産形成の度合いが分かる。

⑤地方債の償還年数

純資産のうち負債が占める割合を意味する。この比率が低いほど財政状況が健全である。

⑥受益者負担の割合

行政サービスの提供に対する受益者負担の割合を表す。

⑦行政コスト対財源比率

純経常行政コスト(経常費用－経常収益)に対する財源の比率であり、当該比率が100%を上回る状況とは、経常的な行政コストを町税収入等で賄えない状況を意味する。

(2) 概要

①純資産比率

一般会計等が76.7%、全体会計が75.6%、連結会計が76.5%である。

②社会資本形成の世代間比率

一般会計等が29.1%、全体会計が29.4%、連結会計が29.2%である。

③有形固定資産減価償却率

一般会計等が73.2%、全体会計が72.1%、連結会計が71.9%である。

④歳入額対資産比率

一般会計等が3.3年、全体会計が3.0年、連結会計が2.6年である。

⑤地方債の償還年数

一般会計等が3.5年、全体会計が3.8年、連結会計が3.8年である。

⑥受益者負担の割合

一般会計等が21.0%、全体会計が24.0%、連結会計が24.4%である。

⑦行政コスト対財源比率

一般会計等が87.9%、全体会計が90.2%、連結会計が91.7%である。